

### ハイドン：3つの弦楽三重奏曲 より 第2番

原曲は、ハイドンのピアノ・ソナタ第41(55)番。本曲を含む3つのピアノ・ソナタ(作品37)は、1784年に「ソナタ集 第2巻」としてウィーンで出版され、結婚の祝賀としてマリア・エステルハージ侯妃に献呈された。全2楽章からなり、ピアノ・ソナタの明朗快活な楽想が見事に弦楽三重奏へ移されている。

### ブラームス：弦楽六重奏曲 第2番

名曲「ピアノ五重奏曲」に続けて、1864年から翌年の7月にかけて書かれたもので、同時にピアノ四手用の編曲も完成させている。初演は1866年10月、米ボストンで行なわれた。編成はヴァイオリン2、ヴィオラ2、チェロ2。第1楽章はソナタ形式のアレグロ。煌めくようなヴィオラの伴奏にのせて、ヴァイオリンが息の長いメロディを奏でる。第2主題は憂いを帯びたチェロが受け持つ。スケルツォの第2楽章はハンガリー舞曲を彷彿とさせる。哀愁の2拍子がトリオでは明朗な3拍子に入れ替わる。第3楽章はテーマと5つの変奏からなり、変奏曲の名手と言われたブラームスの面目躍如たる音楽。第4楽章はソナタ形式のアレグロ。せわしないパッセージに導かれてヴァイオリンが寂しげな旋律を歌う。第2主題を奏でるのは、この楽章でもチェロだ。そして、作曲家の交響曲で聴かれるような長いコーダにより徐々に音楽を高揚させながら曲を閉じる。

### メンデルスゾーン：弦楽八重奏曲

弦楽八重奏曲という編成は非常に珍しく、そのなかではメンデルスゾーンの本作がもっとも有名で演奏機会も多い。1825年、メンデルスゾーン16歳の秋にわずかな期間で書き上げられ、1832年に改訂を施し、1842年に出版された。ヴァイオリン奏者で幼い頃からの友人でもあったエドゥアルト・リーツに捧げている。第1楽章は、勢いのある第1主題と柔らかな雰囲気第2主題によるソナタ形式。第2楽章は、大胆な転調を交えて展開する緩徐楽章。第3楽章は、ゲーテ『ファウスト』の「ワルプルギスの夜」の最後の語句に靈感を得たとされるスケルツォ。終楽章は、自由なフーガ形式によって大きなクライマックスを形成し、力強く曲を閉じる。